
out of hole

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

out of hole

【Nコード】

N0613I

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

薄暗い部屋に飽いて、このままここにいてもしょうがないしっつって、勇んで飛び出したその一歩目でまんまと穴に落っこちた。それも笑っちゃうくらい深い奈落の穴だ。そしてこのお話の中で「這い出す瞬間」を迎える事は無い。だけどこのお話は「悲劇」じゃなく「喜劇」だ。理由は、分かるだろ？

暗い部屋の片隅で光が刺す瞬間を待つたけど、そんなものはいつまで経っても訪れない。

その事に気づいて、しょうがないから有り合わせのなんやかんやを寄せ集めて、奮い立ってみたりして、この部屋を出た。

が。

一歩目を踏み出したその瞬間、まんまと落とし穴に落ちる。

それはとても深くて暗い穴倉で、どうやら俺は見事にその最底辺まで転げ落ちたようで、ここから這い出すのはちょっとどうにも難しそうだ。

半端に勇気とかひり出さないで、あのまま薄暗い部屋に閉じこもってればきつとこんな事にはならなかった。

後悔の念が沸々とこみ上げてくる。

なんかもう根性も大分萎えて、諦めかけたその瞬間、自分以外の誰かの息遣いに気付く。

誰かがいる。

この暗い穴倉に、自分以外の誰かがいる。

いた。

俺と同じように、まんまと落とし穴に落ちた馬鹿が。

俺は穴倉の端っこの方でうずくまってるそいつに声をかける。

「ちょっとどうにかしてここから這い出たいんだけど、手貸してくれない？」

ほら、そんなところでうずくまってないでさ」

俺はうずくまってるそいつに手を差し出す。

そいつはビクビクしながらも顔をあげて、俺の手を握り返す。

握り返すその手に籠ったちからは、思いのほか強かった。

その手の体温を感じた時、なんだかちよつとだけ勇気が沸いてくる。

そもそも半端に勇気とかひり出したせいでこんな穴倉に落っこちる羽目になったわけだけど、確かに今この状況は最悪だけど、でもなんだかやれそうな気がしてくる。

とはいえ、そいつは俺よか長く暗い穴倉の底にいたせいで随分卑屈になっちゃってて、いきなり計画は頓挫。

このままこいつとここでうじうじしても、いつまで経っても状況はよくなるらない。

かといってこいつを切り捨てたところで、一人じゃこの穴の底からは這い出せない。

これはもう無理かもな、とか思った瞬間。

また同じような間抜けがはるか頭上から落っこちてくる。

これで3人になったわけだ。

ギリギリまで傾きかけてた天秤が、一気に逆側に振り切れる。

ちよつと気持ち上向きになって、軽く本気とか出してみても挑んでみるんだけど、これも失敗。

全然だめでした。

そうなる運命であるかのように、すぐさま新しい壁が立ちはだかつて、道は閉ざされる。

だけど。

俺は確かに知った。

一つのお話が終わる時、それは新しい自分レジェンドの始まりに繋がってるって事。

あの日部屋を飛び出した時、一步目で踏み外して暗い穴倉に落ちこちたその瞬間、地上で華麗にサクセスする予定だった俺の物語は誰に知られる事も無く終わった。

だけど、この穴倉の底で似たような馬鹿に出会って、新しい物語が始まった。

困難が道を塞ぐ時、大抵同じような困難に道を塞がれてマゴマゴしてる奴が近くにいます。

そいつの手はやっぱり俺とどっこいの無力な手なんだけど、何故かその手の体温がすごく心強いものを感じられたりする。

薄暗い穴の底で、揃いも揃った馬鹿どもが、非力な力を持ち寄って這い上がるうとする。

その姿を馬鹿げてるなんて、一体誰が言えるだろう。

望む結末にたどり着けるかどうかはまた別の話だ。

けれど、自分と似たり寄ったりの下手糞な間抜けで群れて、馬鹿みたいな計画を立てて、この薄暗い穴倉から必死こいて這い出ようとした日々の記憶は、やっぱり俺にとってレジェンドとか呼べちゃう

くらいに、なんかすごくガッツリ心に留まってる。

さて、そろそろ次の壁をぶっ壊す時間だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0613i/>

out of hole

2010年10月11日22時14分発行